

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成21年12月21日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270700257		
法人名	社会福祉法人 白寿会		
事業所名	平戸荘グループホーム		
所在地	〒859-5361 長崎県平戸市紐差町 450 番地		
自己評価作成日	平成21年11月24日	評価結果市町受理日	平成22年2月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4270700257&SCD=320
--------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号
訪問調査日	平成21年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

EM菌を使用して洗濯や掃除をしている（消臭殺菌効果あり）。また、調理の残飯生ごみは、EMぼかしを作って「グループホーム菜園」のたい肥料として使用している。その畑でつくる野菜は、利用者もお世話をし、収穫も利用者と一緒にし、調理してみんなでいただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

広々とした空間を活かし、入居者が自由に活動したりくつろいだりできるよう家具が配置されており、入居者はそれぞれの場で落ち着いた生活を送られています。学生との交流、近所の方や友人などの訪問があり、一緒に活動を楽しまれる機会もあります。栄養士による魚や野菜を中心とした献立は、地元の素材を生かされており、入居者の皆様は日常の中の食事を楽しまれています。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「どのように支援していくのか」と職員全員で考えて「想い」を入れた理念を作っている。毎日ミーティング時に唱え、施設内にも掲げている。	安心安全に過ごされるよう真心込めて、という思いを大切に全職員で話し合わせ作り上げられた理念は、様々な場面における基本として取り組まれています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、地域行事や近隣小学校の運動会にも参加している。また年に数回ボランティアを受け、グループホームの菜園の畑作業を手伝ってもらっている。	地域の行事や訪問などに参加されています。老人会や学校との交流もあり、一緒に活動や食事を楽しまれたりしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症対応型通所介護事業の実施をおこなっている。家族とも交流があり介護上の相談を受けることもある。人材育成として職場体験の受け入れをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用者への取り組みや状況を説明している。その中での意見で小学生との食事の交流の予定を立てている。	定期的に開催され、入居者も含めた参加者との意見交換もされています。出席者からの質問などもあり、関心の高さが伺われます。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、包括支援センターより使送文書がある時は、施設内の様子も確認してもらい、お互いの情報交換をして協力関係を構築している。	様々な会議や連絡時などに連携を深めるよう取り組まれています。各係の職員もそれぞれに市の担当者等と協力体制を図られています。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、委員会を中心に勉強会をし、拘束に対する正しい理解を深めている。	身体拘束をしないよう母体施設と相互に確認し合いながら取り組まれていません。安全に配慮し、見守りでケアを実践するよう配慮されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止委員会」を設置し、法人全体の意識として、虐待は無いように位置づけており、職員それぞれがその発見と防止に注意を払って対応できている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に権利擁護を利用している方がいて、勉強会に参加した時も権利擁護の講義があり身近に感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に面接を行い、可能なら見学もして頂いている。家族や担当ケアマネジャーとも打ち合わせをし、本人、家族同席の中で時間をかけて説明・対応している。電話等でもその都度説明を重ねている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や、面会時の意見や希望・要望・苦情は、外部の方(第3者委員)を交えた苦情対策委員会にて話し合い、本人や家族へ対応の内容について詳しく伝えている。	苦情箱を設置し、面会時に家族と担当者が会って話せるようご意見を伺う機会を作る取り組みをされています。	意見箱などには入りにくい声をアンケートの実施などにより積極的に得る機会をもたれるよう期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、各事業所の代表者が出てくる出席をしている。出た意見は代表者同士が集まる会議に持っていくため、職員の意見や要望が聞き入れられる場はできている。	日頃から職員間で意見を出し合い、会議にて話し合っけて運営に反映されています。	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人の運営方針に沿って職員処遇は守られている。また、自己啓発の支援、労働衛生安全の配慮もできており、整備されている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>○J T、OffJTと積極的に参加の機会があり、職員の資質向上がはかられている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>近隣の3施設共催による「風船バレーボール大会」をしており、日頃の情報交換、情報共有、事業協同の連携を図りやすくなるように、取組みがなされている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人からの要望はなかなか聞きだすことができないので、フェースシートにて利用者の生活歴、家族構成、生活環境を十分把握し、家族のように理解し合える関係を構築できるように努力している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族が「施設利用」という精神のハンディを抱える事がないように、同じ目線もしくは、それ以下の姿勢で接し、家族からの要望や不安等が聞きだしやすいように努力している。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>認知症を抱える家族の不安と苦勞を十分理解し、目の前の不安を取り除くこと第一に考え、徐々にサービスの範囲を広げ、多くの選択肢を提示しながら、対応するように努めている。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は「人生の先輩」であり、介護されているという負い目を絶対に感じさせてはいけない。常に敬いの心を忘れずに、一緒に生活する中で色んなことの教えを請い、共に生活する家族として接する。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には出来るだけ話をする機会を持ち、面会がすくない方には月1回電話を入れて近況報告をしている。贈り物が届いた時にも連絡を入れている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に一度は外に出る機会を設け地域の人との触れ合いや馴染みの場所を見られるようにしている。仏壇へお茶を毎朝上げる支援をしている。	家族やお友達の方や神父さんがみえることもしばしばのようです。家族が宿泊できるように簡易ベッドも準備されています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時はできるだけ利用者との会話を持ち、昔話などを引き出すようにしている。その中でそれぞれの個性をみて、世話好きな人や場を和ませる人などの特徴で支え合っている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られても遊びに行ったり、来たり、行事にも招待するなど、一度かかわった家族として連絡を取り続け、家族からの相談も受けやすいように支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向をできるだけ汲み取り、安全上困難な場合は、その理由を十分説明し、納得してもらう。	表情や行動で思いを察知し、声掛けで確認して思いを受け止めるよう取り組まれています。希望に沿って出掛けたり買い物を楽しまれています。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別ケアの基本を忘れず、常に個人に合ったサービスができるように、情報収集に努める。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間を通じて、日勤帯、夜勤帯と状況把握に努め、職員間の申し送りを確実にし、情報の共有に努めている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族を交えた「担当者会議」を実施している。その中で、生活支援と身体機能の維持向上を目標に本人と家族の意向にそった計画を立てている。	入居者を交えた担当者会議は、家族にも事前に意向を伺ってみんなで介護計画を作成されています。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個人のケース記録は、毎日記録しており、状態の把握ができています。ケース記録もパソコンでいつでも見れるようにしている。その記録を常に検証しながら、日々のケアに活かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時には超法規的な対応も必要となるときもあり、法人が運営する施設を最大限利用し、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出身地の老人クラブの慰問や、菩提寺へのお参り等を生活の中に取り入れ、地域社会と乖離しないように支援している。		

30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診支援は、家族、利用者の希望通り実施している。また、医師と職員との連絡も十分とれるように協力体制を構築している	一人ひとりに合わせてかかりつけ医への通院支援を行われています。医師との連携をとりながら、受診結果を家族へお知らせされています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師との連携により、時間を空けず適切な医療的対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合は、十分な情報を記したケアサマリーを作成し、入院医療機関に十分な説明とともに提供している。また定期的なお見舞いや洗濯が必要な場合の訪問時に病院との情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応の指針とターミナルケアの指針に基づき実施している。同意書は取るが、変更はいつでも出来る様に説明しており、本人・家族を中心としたケアをしている。宗教的支援が必要な場合は、菩提寺または、地域教会、寺、神社等に依頼する。	重度化した場合の対応にかかる指針を策定され、重度化が進んでいる方に対して家族を交えて取り組まれています。	入所時での説明がなされていないため、初めの時点での説明をされることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員「普通救命講習」を毎年受講更新している。AEDの取り扱い講習もしている。また職場内でも救急法の勉強会を毎月実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導経路を施設内に掲示しており、常に意識して確認している。消防団合同での災害非難訓練も年に2回実施している。	夜間における避難訓練を実施し、実際の時間帯の交通状況などに対応した訓練に取り組まれています。非常食も整備され、台風時は市の要望により近所の独居老人の避難受け入れにも対応されています。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重した言葉かけに努めている。また守秘義務を徹底し、個人情報にかかわる会話には注意し、プライバシーの保護に努めている。	ノックをしたり着替えの時には衝立を立てたりと、プライバシーに配慮した取り組みが行われています。声掛けも無駄に大声出さずにお伝えするよう心がけられています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者の希望をさぐり、本人の意思として表現し、自己決定ができるように出来るだけ生活の選択肢を提供できるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「利用者本位」の気持ちを常に持ち、業務優先させることなく、利用者の希望にそった生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣替えや、衣類の購入も出来るように支援している。なじみの理美容室があれば、本人希望にそって連れて行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のそれぞれの能力にあった役割を見出し、野菜の刻みや配膳、後片付けなどお願いしている。手伝いが苦痛にならないように、また出来ない利用者の心理的配慮もしている。	毎月のお赤飯やお刺身など、地域的に馴染みの深いメニューや季節の素材を生かしたものなどバラエティに富んだ献立を栄養士が立て、調理されています。誕生日にはご本人の好きなメニューを作るなど入居者が楽しめるよう取り組まれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、併設施設の栄養士が作成しており、栄養のバランスはとれている。定時、随時の水分補給にも気をくばり、水分欠乏にならないよう注意している。		

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ、見守り支援をしている。夜間は、義歯を預かり洗浄剤で洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表のチェックと排便コントロールで体調をみている。自立者の排泄確認も出来る限り行っている。	見守りと誘導により排泄の自立支援に取り組まれています。個々の体調や季節に合わせて声掛けをし、快適に過ごして頂けるよう配慮されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維が多く入った食材を工夫して調理している。また、適度な運動も促し、それでも困難な便秘には薬で調整し管理している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に入浴は本人の希望でしている。しかし、衛生管理上、最低週に3回は入浴もしくは、清拭をしている。	家庭で過ごす時のように午後から入浴の時間を設け、広い浴室にお一人ずつ快適に入られるよう取り組まれています。季節のお風呂も楽しまれながら、ご希望に沿った入浴に対応されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転に注意しながら、昼寝等も支援している。夜間不眠で起きてくる利用者には、お茶をだしたり、話し相手になったりと対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々人の服薬ファイルを指定の場所に置き、内容を確認できるようにしている。病院受診後は、内容を記録し、申し送り帳にも記入している。		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>食事の準備、縫いもの、畑仕事などで得意なことを教わりながら支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>玄関は施錠せず、自由に出入りできるようにしている。また、本人の希望があれば、自宅や教会、お寺参りも支援している。</p>	<p>気候の良い時は毎月ドライブに出かけたり、買い物や散歩を楽しんだりしています。昼間は畑に出たり散歩したりなど安全に配慮しながら個々の希望による外出がされています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族と相談の上、小額のお金を手元に持っている利用者は、買い物の際に自分で支払っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族・知人からの電話は、時間関係なく取り次いでいる。郵便・宅配便の送り、受取りに制限はない。利用者の希望により、郵便を出したり、荷物を送ったりしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花を生けて「四季」を感じてもらっている。食事の時は、BGMをかけて気分が落ち着くように工夫している。</p>	<p>南向きの居間は畳敷きでのんびりくつろげるスペースとなっています。続きのホールには活動に合わせて利用できる高さの違うテーブルや椅子、ソファが配置され、各々が好きな場所で食事をしたりくつろいだりできるよう配慮されています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>畳間のコタツだったり、応接のソファだったり、自分居室以外の場所で、仲のいい方と話すことができるようにしている。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から家具を持ち込んだり、居室内の壁に好きな写真やポスターを貼るなど、好きに使ってもらっている。	クローゼットやベッドのほか、机や箆笥など個人の私物を好きな場所に配置され、それぞれがくつろげる空間となっています。家族と一緒に泊まれるゆったりとした空間となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ在宅での生活に近い環境で生活出来る様に支援している。たとえば、台所の包丁を取り上げるのではなく、見守りながら安全に注意を払い、包丁使用を支援する。		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
		○	3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない